

河川敷野草の活用について

(社)岡山県畜産協会経営指導部

1 取組の経緯

国土交通省は、河川の防災及び維持管理のため、年2回、河川敷や堤防の野草を刈り取っていますが、多くは、焼却処理されています。

一方、畜産農家では、近年の購入飼料価格の高止まりで経営を大きく圧迫されており、

安価な飼料の確保が急務となっています。

こうした背景のもと、平成21年度から県畜産課と当協会は国土交通省岡山河川事務所と連携して、河川敷の野草の活用により、飼料自給率の向上とともに河川敷の環境保全に取り組んでいます。

2 平成21年度の取組状況

1) 配布状況

形態	数量	配布農家		配布回数
		肉用牛	酪農	
バラ	38 t	12 戸	- 戸	8 回
ロール梱包	5	5	1	2
計	43	17	1	10



2) 成分分析 (%)

区分	乾物率	粗蛋白	粗脂肪	N F E	粗繊維	粗灰分	A D F	N D F
現物平均	—	4.7	2.0	43.9	24.0	5.5	35.6	58.9
乾物平均	80.1	5.9	2.5	54.9	29.8	6.9	44.3	73.1

・成分分析結果から、イタリアンストロー及び稲ワラと同等な成分であった。

3) 給与実証等の結果

給与実証は、肉用牛農家7戸（岡山市1、赤磐市1、井原市2、新見市1、和気町2戸）と酪農家1戸（赤磐市1）の計8戸で行った。

- ・家畜に給与した結果、嗜好性はよかった。
- ・野草利用の評判もよく、今後も利用したいとの声が多かった。
- ・品質が天候に著しく左右され、低品質の野草給与には不安を感じている。
- ・配布形態は、運搬、利用の点から小型ロールでの提供が強く望まれている。

・異物の混入、品質の不安定なところから、当面肉用牛への給与が望ましい。





4) 供給体制の検討

ロールでの提供を望む声が多いことから、高梁川の総社市井尻野及び旭川の岡山市浜河川敷において、大型ロールベラー、小型ロールベラーを使用した梱包実証を行いました。

実証の結果、河川敷の形状が良好な場合、草地と遜色ない効率的なロール製造が可能であり、天候に恵まれた時は極めて良質のロールが得られました。

また、小型ロールはベールに時間を要するものの、和牛繁殖農家においては、運搬、給

与の点からも好評でした。

3 平成 22 年度の取組について

1) 畜産農家への情報発信

- ・当協会のホームページによるネットワークづくり。
- ・県下河川流域の刈り取り時期、植生のマップを作成する。
- ・イベントや会議で事業の取組内容等をPRし、普及啓発を図る。

2) 供給体制の検討

- ・梱包（ロール）作業体制の整備を検討する。
(小型ロールベラーのレンタルリース化の検討)
- ・ストックポイントの設置を検討する。

3) 飼料給与調査

- ・家畜への飼料給与調査・意向調査(アンケート調査)を行う。

4) たい肥処理の検討

- ・雨に濡れた野草、食性不向きな低品質野草の敷料利用及び牛ふんたい肥化の実証を行う。

5) 河川敷草地利用への検討

- ・草地化利用のモデル実証を行う。
(土壌分析、飼料分析、収量調査、草種検討)